

**第1回瀬谷区地域福祉保健計画 全域計画推進懇談会 議事要旨**

日時	平成28年6月15日(水) 午後3時30分から午後5時20分
場所	区役所5階大会議室A B
出席者	出席委員 18名(全委員)
	<p><b>1. 開会あいさつ</b> 森区長あいさつ</p> <p><b>2. 委員紹介</b> ・事務局から委員紹介</p> <p><b>3. 議題</b></p> <p>(1) 第3期地域福祉保健計画について(計画冊子・概要版)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画冊子及び概要版を使って、第3期計画の概要・特徴について説明。</li> </ul> <p>(2) 28年度全域計画・事業計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区役所所管事業から3事業と、瀬谷区社会福祉協議会(以下、区社協)、地域ケアプラザ(以下、ケアプラザ)の計画について説明。</li> <li>・地域包括ケアシステム事業について説明。地域包括ケアシステムは国レベルで推進する、団塊の世代が全て75歳以上になる2025年を見据えての仕組みづくり。</li> <li>・健康づくり関連事業として7本の柱を包括的に説明。瀬谷区は、特定健診やがん健診の受診率が非常に低く、女性の喫煙率が高い、主観的健康度(自分が健康であると思う区民の割合)が横浜市平均より低い等、健康に関する課題が非常に多い。</li> <li>・災害対策事業のうち地域防災関係を説明。地域防災拠点訓練をとおし、災害時ペット対策、水害対策及び災害ボランティア支援について関係機関と情報共有し、地域の防災力向上を図っていく。</li> <li>・区社協の事業計画7点を説明。①地区別計画推進懇談会・研修会の開催②全域計画の進行管理。③子ども支援事業の推進。④介護予防・日常生活支援総合事業の生活支援体制整備事業の推進。⑤権利擁護事業のPR及び成年後見制度利用促進のための取組。⑥賛助会員拡充への取組。⑦各種ボランティア講座の開催。</li> <li>・地域住民の要望・ニーズへの細かな対応のために、ケアプラザが基本目標を共有して地域福祉の向上に取り組んでいく。①高齢者支援、②地域住民、関係機関等との連携、③こども・障害者支援、の3つの領域に分けて説明。</li> </ul> <p><b>[質疑応答]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別養護老人ホームに、地域の情報が伝わってこない。地域包括ケアシステムの中での認知症関連の取組など、地域の役に立ちたい。 → 今後取組を進めていく中で、ぜひ一緒に考えていただければと思う。(高齢・障害支援課)</li> <li>・災害医療体制関連。災害時医療体制のチラシの周知が足りないのではないか。発災時、診療可能な医療機関に旗を揚げても、それを拠点で把握することは困難。区内の状況をまず地域防災拠点にできるだけ早く知らせることを考えてほしい。地域での訓練に医療救護隊が参加していない。特別避難場所への移動の判断を含め、ぜひ訓練を実施してほしい。総務課の防災対策と福祉保健課の災害時医療体制との連携をしっかりと図ってほしい。</li> </ul>

- 災害関連は、まだまだ十分ではないと認識している。医療機関と連携して着実にすすめていきたい。これから地域に出て行き、より実践的な取組にしていきたい。災害時医療を中心に区内での連携訓練を準備している。災害時医療のチラシはもっと周知していきたい。(福祉保健課)
- ・健康関連について、からだまるごと健康フェアへの参加者増のため、より一層の広報活動が必要。
  - 健康フェアについては、ぜひ地域の皆様のお力を借りて、多くの方にご参加いただけるようにご協力いただきたい。(福祉保健課)
- ・医師会と区で協力して訓練を準備している。現状としては、衛星携帯電話、PHS、MCA無線の3本を利用して連絡を取り合う想定だが、電話もメールもつながらないことを想定して、大きな「診療中」という旗を出す。着実に進めているのでこれからもご協力をお願いしたい。
- ・医師会として、地域での訓練や講演等へお声掛けいただければ協力できる。ぜひ利用してほしい。
- ・防災拠点の話があったが、区役所と地域防災拠点の無線の連絡がまだうまくいっていないかのようになっている。現状と今後の対応を聞きたい。
  - 地域防災拠点の無線に関しては、発災時にきちんと対応できるように、各拠点での訓練の際に、区本部との通信訓練をするようお願いしている。発災時に地域防災拠点に参集する市職員に対しても、毎年研修を実施している。引き続き取り組んでいきたい。(総務課)
- ・防災のこと。東日本、常総市、熊本などの被災地へボランティアに行ったが、現地の市役所や社協は混乱していてニーズと支援のマッチングが困難な状況。行政や社会福祉協議会だけでは足りないときに、そういうことに長けたNPOやNGOとも繋がっておいた方がよいのではないかと。
- ・生活困窮世帯の学習ボランティアとか学習支援ネットワーク、子どもの支援事業としてケアプラザも社協も取り上げているが、これらの事業について触れていただきたい。
  - 生活困窮者の学習ボランティアと寄り添い型生活支援事業については、まだスタートしたばかりであり、来年度くらいには成果を含めてお話しできると考えている。(福祉保健課)
- ・地域防災拠点について、地域の皆様と一緒に区市とも一緒になって取り組んでいきたい。
- ・貧困とか家庭の教育力の不足が子どもに影響してしまう状況がある。学校としてもどうにかして学力をつけたい、それが貧困の連鎖を止めることにもつながる、と思うのだが現状は難しい。まずは区役所の協力を得て家庭への支援をしていただいているので、これは続けていっていただきたい。また学習支援にも力を入れていくとのことなので、学校も一緒に考えていければと思う。
- ・地域福祉保健計画と国の全体の動きの中で一番関連しているのは、地域包括ケアシステムをいかにして地域の中に展開していくことができるのかということだろうと思う。地域包括ケアシステムにおける生活支援コーディネーターの活動に関心を持っている。
- ・生活支援コーディネーターは、瀬谷区の地力を活かして、地域づくりをやっていく、地域福祉保健計画の実践をしていくということだと思う。この事業に非常に期待している。

#### 4 平成28年度の予定について

事務局から今後の予定を説明。